



報道関係各位

当館が所有する“YS-11”と“ペンシルロケット”が 「航空宇宙技術遺産」に認定されました！

国立科学博物館(館長:篠田 謙一)が所有する“YS-11”と“ペンシルロケット”が、日本航空宇宙学会から「航空宇宙技術遺産」として認定されました。

“YS-11”については、戦後の航空機産業の空白後にふたたび航空機設計の基礎技術を確立、蓄積したエポックメイキングな機体であること等が評価されました。

令和6年2月よりザ・ヒロサワ・シティ内の科博廣澤航空博物館(茨城県筑西市)にて一般公開されています。

“ペンシルロケット”については、超小型の固体ロケット開発から開始して人工衛星打上げを達成したという日本独自のロケット開発プロセスにおいてその出発点となる資料であること等が評価されました。

現在、国立科学博物館上野本館(台東区上野公園)に常設展示されています。

【YS-11】



【ペンシルロケット】



【YS-11】について

YS-11 は、我が国唯一の純国産開発の民間輸送機として、国家支援のもと性能・経済性等世界的評価を得て、世界で活躍しました。当館が所有する YS-11(機体番号JA8610)は、量産初号機であり、現存する YS-11 の中で試作機を除く最古の機体でもあります。昭和 40 年 3 月に運輸省航空局に納入されたのち、我が国の飛行安全確認の点検機として 2 万時間を超える飛行実績を有します。

本機は、平成 19 年には「機械遺産」(日本機械学会)に、平成 20 年には「重要航空遺産」(日本航空協会)として認定されています。

令和 2 年には、クラウドファンディングによる支援を得て、羽田空港内の格納庫より茨城県筑西市にあるザ・ヒロサワ・シティへ移設して機体を組み立てました。令和 3 年 3 月には、管理運営の主体となる一般財団法人科博廣澤航空博物館(代表理事:廣澤 清)をザ・ヒロサワ・シティとともに設立し、令和 6 年 2 月 11 日より一般公開を開始しています。

【ペンシルロケット】について

ペンシルロケットは、太平洋戦争後 7 年間の航空禁止令を経験した日本が人工衛星打上げを行えるようになった、固体ロケット技術開発の礎です。昭和 27 年から、東京大学生産技術研究所 糸川英夫教授の指導の下で固体ロケット開発が進められました。その最初の実験用ロケットとして、長さ 230mm、直径 18mm のペンシルロケットが製造され、昭和 30 年 4 月には、現在の国分寺市にて水平発射によるロケットの飛翔に関する各種データを取得する実験が行われました。その後、実験は現在の千葉市にあった同生産技術研究所に場所を移して継続され、そこでは 2 段式や大型のペンシルロケットも用いられました。同年 8 月には、秋田県道川海岸での斜め発射実験にて、到達高度 600m、水平距離 700m、飛翔時間 16.8 秒の飛翔を実現し、次の大型化されるロケットへと開発を引き継ぎました。超小型の固体ロケット開発から開始して人工衛星打上げを達成したという日本独自のロケット開発プロセスにおいて、ペンシルロケットはその出発点となるものです。現在、国立科学博物館上野本館(台東区上野公園)に常設展示されています。

【航空宇宙技術遺産】について

日本航空宇宙学会が我が国の航空宇宙技術発展史を形づくる画期的な製品および技術を顕彰して後世まで伝え、今後の航空宇宙技術の発展に寄与することを目的として、我が国の航空宇宙技術発展史上の画期的な製品および技術に対して、航空宇宙技術遺産を認定するものです。

一般社団法人 日本航空宇宙学会 航空宇宙技術遺産ホームページ

<https://branch.jsass.or.jp/isan/>

【お問い合わせ先】

■ YS-11 について

国立科学博物館
産業技術史資料情報センター長 前島 正裕
経営管理部研究推進・管理課研究活動広報担当
稲葉 祐一、中山 瑠衣
305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1
TEL:029-853-8984 E-mail:t-shuzai@kahaku.go.jp

■ ペンシルロケットについて

国立科学博物館
理工学研究部長 米田 成一
事業推進部広報・運営戦略課広報戦略担当
原田 光一郎、小口 舞
110-8718 東京都台東区上野公園 7-20
TEL:03-5814-9855 E-mail:shuzai@kahaku.go.jp